

私たちと一緒に早期支援を全国へ届けませんか？

1人でも多くのお子様とご家族へ必要な支援を届けるため、ADDSは寄付を募っています。
皆様からの暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



「発達支援を必要とするすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会を」
皆様のご寄付がこんな支援につながります。



① 質の高い個別療育を全国へ



② 支援者向け研修システムの開発



③ オンライン発達相談をより多くの保護者へ

3,000～10,000円コース

子ども達の成長を、いつも変わらず見守っていきたい。
1回でも毎月でも変わらぬ気持ちが込められたコースです。
▶ 3,000円コース・5,000円コース・10,000円コース

自由にいつでもコース

今日は素敵なことがあったから、頑張っている子ども達にも分けてあげたい。思い立ったその時に、自由にいつでもいくらでも。
▶ 金額は自由にご指定いただけます

寄付は振込口座またはクレジット決済がご利用頂けます

- 口座振替(寄付申込書のご提出をお願いします)三菱UFJ銀行 恵比寿支店 // (普)0284405 特定非営利活動法人 ADDS
- クレジット決済・寄付についての詳細はコチラをご覧ください <https://adds.or.jp/support/>



随時受付中!

古本での寄付「チャリボン」

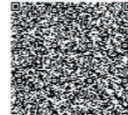
古本のリユースを活用して寄付ができる「チャリボン」からもADDSに支援可能です。



書籍も好評発売中!

これまでに向き合ってきた悩みごとへの具体的なアイデアを一冊に!

こちらから購入できます▶



団体概要

正式名称	特定非営利活動法人 ADDS	法人資格取得	平成 23 年 12 月 16 日
所在地	東京都杉並区荻窪 5-16-14 カバパビル5F (ADDS Kids 1st 荻窪)	常勤職員	31名
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所	非常勤職員	29名
共同代表(理事)	熊 仁美 竹内 弓乃	運営事業所	ADDS Kids 1st 鎌倉 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜三丁目11番48号 由比ガ浜こどもセンター 3F 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業 江戸川区発達相談・支援センター(指定管理) 〒132-0031 東京都江戸川区平井四丁目1番29号 施設概要:児童発達支援センター、相談支援事業、発達障害相談センター
理事	原 由子 加藤 愛理		
監事	河野 良雄		

2021

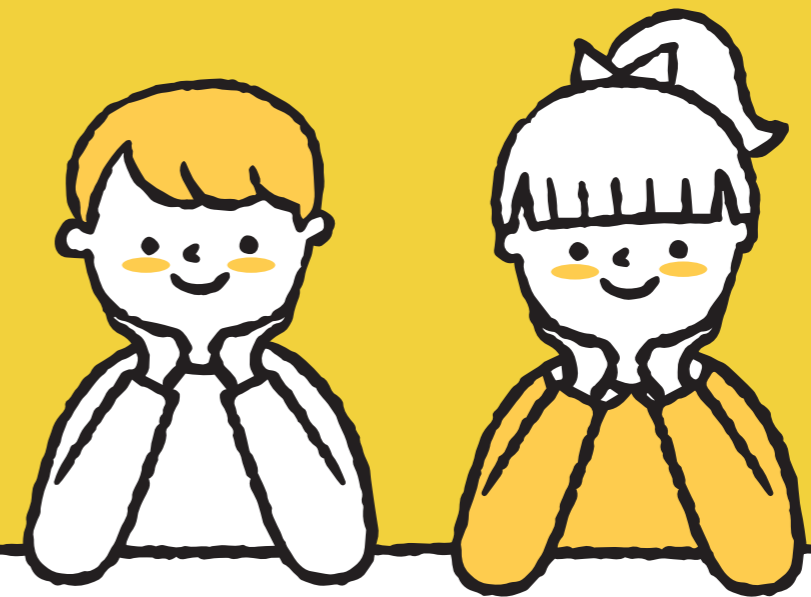
特定非営利活動法人ADDS

ANNUAL

2021年度年次報告書

REPORT

家族に知見を 社会に仕組みを みんなに機会を



発達「支援」の、その先へ



SPECIAL CLASS TALK



発達特性がある人が生きやすい社会づくり、それは、すべての人が生きやすい社会づくり。

ミッションをアップデートは、法人スタッフみんなで行いました。

原 創立10年という節目を迎え、江戸川で発達相談・支援センターの指定管理を受けるタイミングもあり、もう一度見直そうというきっかけになりました。理事4人だけでなく、法人スタッフを交えてアップデートの会をつくったことがすごくよかったと思っています。特に色々な職員の意見、思いが盛り込まれたことが重要だったと感じます。合宿など何回か話す会を設け、そこでは色々な話も共有でき、療育の質を求めているスタッフの想いなども感じる機会にもなりました。

加藤 そうですね！法人スタッフみんなです話したことが本当によかったと私も感じます。今一度目指す未来をみんなで考えた時に、スタッフみんなが、対象が子どもだけでいいのだろうか？と感じて、「発達支援を必要とするすべての人」というのを思い描いているという事が、その時初めてお互いに共有出来たと思います。改めて考えて、言葉にしたことで、お互いに確かめ合ったというのが印象的でしたね。

熊 それで背中を押されたという感じで、ずっと「子ども」を対象にしてそこに注力してやってきたので、「すべての人」にアップデートしたのは大きな選択でしたね。でも皆が肯定的で、自然と意思決定を行うことが出来ました。

原 議論は白熱して、言葉一つとっても、その言葉でいいのかわかなくて話したのもよく覚えています。

竹内 そうですね！今までの沢山の思いがあつた場をつくったと思います。法人始めて10年間にいろいろな子どもたちや保護者さん、支援者の方たちに出会って、いろんな環境や社会の状況があるって

いう現実を深く知った時に、私たちが強い想いを持って推し進めてきた「早期に」「最大限」「親がやる」などに特化していただければ、現実的に全数に届かないのではないかとそこだけでいいのだろうか？という疑問があって、今一度みんなでミッションを考えたいという思いがありました。「可能性を最大限に広げられる社会」から「自分らしく学び希望をもっていきける社会」というのは変化が大きかったよね。

加藤 今でも「最大限の可能性を引き出す」という気持ちが強いけど、それが目的ではなく、手段となったという感じかな。

熊 そう！手段になったことで、ソリューションを改めて見直しているところですね。広い視野で様々な方法を模索する良いきっかけにもなったと感じています。

原 そういう面では、ミッションアップデートのあの場があったからこそ、kikotto(オンライン相談)の立ち上げに踏み出せたとも言えるね。コロナというきっかけはありましたが、前のミッションのままだったら切り口が違った可能性があったと思います。大きな視野で社会課題に目を向け、活動に広がりが出ていますね。

竹内 本当にその通りで、大きな視野を持てるようになりましたね。ADDSの専門分野である発達障害という切り口から、将来的にはみんなにとって生きやすい社会をつかっていきたいと日々感じています。「皆が当事者である」という気持ちがとても強くなった。誰もが自分らしく学び、暮らし、希望をもって生きていけるということは、障害の有無にかかわらずみんなにとっていい社会であると信じています。これから生まれてくる子供たち、これから大人になる子どもたちが生きる社会に向けて、発達障害を持つ人たち、その先にはすべての人が生きやすい社会を以前よりもっと意識して活動していますね。



熊 仁美 くま ひとみ

共同代表/心理学博士/公認心理師
2007年 慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
2009年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程修了
2013年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻博士課程修了



竹内 弓乃 たけうち ゆの

共同代表/臨床心理士/公認心理師
2007年 慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
2009年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程修了
2013年 横浜国立大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻臨床心理学コース(夜間主)修了

発達障害という概念が必要ない未来へ… 実現に向けて「ともに」手を取り合いたい！

熊 ミッションの改定には、「あらゆる社会課題の背景に発達障害の問題がある」ことに気づいたという点が大きいと思います。そのことを踏まえて、早期の療育を受けた子ども達が暮らしていくこの社会全体が、その先も、一人ひとりの可能性を広げられる社会になっていくようにADDSは活動しています。でもその達成のためには、ADDSだけではなく、社会のあらゆる人と手を組む必要がある、と改めて強く思っているところです。

原 この2年では、特に江戸川でいろんな職種や機関の人に会うようになったことが印象的です。チームで子どもを真ん中において支援するという機会が増えました。相談にくる人たちも色々な課題を抱えていて、ADDSだけではなく、連携して取り組んでいかなければならない必然性を日々ひしひしと感じています。「いつも子どものことを考えてくれて、〇〇先生の大ファンなんです」と連携先の保育園の先生がうちのスタッフのことを言ってくれたり、一緒に子どもを見ることが出来る環境ってすごくいいなと感じています！それに、実習生の受け入れも新しい種まきになっていて、今までは心理学系の大学院の学生さんが療育のスキルのために実習にきていることが多かったのが、保育士になるための実習先にもなっているんです。療育や障害がある子ども達とは縁がなく、どんな施設だろう？と不安をもって入ってきたけれど、なんて楽しい現場と言ってくることが多くて！その理由としては、誰も子供を叱っているところを見たことがない、子どもに合わせて関わっているという面が印象的とのことで、その後保育士として働く人たちにそういった経験をして貰えることが本当に嬉しいですね。

加藤 本当に色々な方面へつながりが広がりましたよね！私は最近、研修などで他機関に伺う機会も増えました。ミッションの改定を経て、知識を広める、渡すという気持ちよりも、どこに行ってもみんなと手をつないで、子ども達や当事者の方にとってよりよい社会をつくるよね、仲間だよ、という気持ちを改めて強く持つことができ、伝え方や研修の組み立て方が変わったと感じています。私自身、法人スタッフみんなですつづけた「ともに」という考え方を大切にしていきたいと日々感じていると同時に、それぞれスタッフが自分の「ともに」を見つけていって欲しいと思っていますね！

熊 ミッションの改定から、みんなが「ともに」を強く意識して活動しているということが伝わってきますね。今までの蓄積はちゃんと広げて、療育のやり方やABAの考え方を広めていくことはまだまだやっていくべきことで、届けていく道筋は見えてきています。社会の在り方そのものを変えていくというミッションのベースには、環境を変えることで子どもは変わる、というABAの考え方そのものがあって、その考え方はあらゆる領域で役立つという実感がありますね。

竹内 そうですね！あと最近、他の色々な領域に、実は同じ目標を、違う角度から見ているだろう人たちがいることを感じますね。そういう人たちと一緒にムーブメントをおこしていく一端をADDSも担って、私たちに出来る価値を出していくことを意識していきたいです。それに、NPO法人である私たちは、制度の狭間にある人たちに必要なものを届ける、無いならつくりだす部分が本分としてあるんだけど、その部分に充分リソースを投入しきれていないというジレンマもありますね。その理由としては、障害児通所支援事業や指定管理事業以外の事業の運営がとても縛りが強く大変ということ、独自事業の開発や研究活動は収入になりにくく、人を雇用したり、私たちの時間を大きく振り切ることがしづらいという課題が。それでも、必要なものを届けるために新しいものをつくりだしていこう！と活動しています。本当に必要な支援を生み出し届けるための活動が、持続的でもっとチャレンジングになるよう、サポーターの皆様からのご寄付がすごく重要な後押しになっています。

熊 本当にその通りですね。kikotto(オンライン相談)も皆様からのご寄付があったから、コロナ禍でも立ち上げることが出来ましたよね。これからも、皆様とともに課題解決をしていけたらと思っています。

原 ご寄付頂いている方々、思いをともにしてくださっている方々には、本当に心より感謝しています。必要なものを必要な人に届けるためにも、ともに目指す未来をつかっていくためにも、法人外部はもちろん、内部にも伝える機会をつくるのが、今後もっと大切になっていくとも感じていますね。

加藤 想いを共有していくことが大切ですね。このアニヴァーサリーレポートだけでなく、法人内外に対して積極的に情報発信をしていきますので、皆様これからもご支援宜しくお願い致します！



加藤 愛理 かとう あいり

理事/臨床発達心理士/公認心理師
2010年 慶應義塾大学文学部人間科学専攻卒業
2012年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程修了



原 由子 はら よしこ

理事/臨床発達心理士/公認心理師
2008年 慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
2010年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程修了

Mission

発達障害という概念が必要ない未来へ

発達支援が必要なすべての人が
自分らしく学び希望をもって生きていける
社会をともに実現します



「日本に帰って一番辛いことは、我が子への療育環境がアメリカでいた頃のように整わないことかな、と思っていました。でも、帰ってきたら違いました。私がアメリカで体験して学んだようなことを、子どもが幼稚園に入るような年齢まで知らない人が数多くいて、多くのお子さんの可能性が失われていることが一番辛かったです。今も、そのことが一番辛いです。」

これは、共同代表である竹内が学生るとき、自閉症の支援を始めるきっかけとなった保護者の方からいただいたお手紙中の言葉です。日本では欧米に比べて、効果が実証されている療育を受けられる環境が不足しています。この頃から実に15年以上が経過し、「発達障害」という言葉は社会に広く知られ、障害者自立支援法の改正などをきっかけに子どもの通所施設も激増しました。創業当時と比べれば、発達障害を取り巻く社会は大きく変化してきています。

しかし、依然として支援の質や情報のばらつきは大きく、子育てに困り感を抱える保護者や現場の支援者からの切実なご相談は絶えません。私たちは、エビデンスに基づく質の高い支援の実践と研究を積み重ね、一人ひとりが個別最適化された学びのメニューを選べる仕組みづくりに今後も邁進します。

15年前に出会った子どもたちは大人になり、日々奮闘しながらそれぞれの人生を歩んでいます。自分らしく色々なことに向き合い、明日もちょっと楽しみだなと、希望をもって日々を過ごして欲しいと願わずにはいられません。

障害の有無にかかわらず、生まれた環境にかかわらず、誰もが自分の特性に合った学び方や暮らし方のできる社会になれば、「発達障害」という概念すら必要なくなるのかもしれない。療育・教育・福祉など業界の枠にとらわれず、社会の様々な立場の皆様と手を取り合い、そんな未来をつくっていききたいです。

Philosophy

ADDsの理念

保護者とともに取り組むこと

わたしたちは、保護者は子どもの一番の専門家になれると信じています。子どもが学ぶ過程をしっかりと共有し、その親子らしい学びのスタイルをともに築くことを大切にしています。



研究成果に基づいた手法を選択すること

わたしたちは、応用行動分析学(ABA)に基づいた支援を行います。ABAは、具体的な目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させていくPDCAのサイクルを繰り返します。子どもの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。



社会に変化を起こすこと

子どもたちは、かかわる人や環境から様々なことを学びます。わたしたちは、すべての人が、子どもたちの良き理解者、支援者となる社会の仕組みづくりに取り組んでいます。



2021年の

数字で見るADDs

2021年のADDsの活動を数字でふりかえりました。

「べあすく」提供延べ人数

7,303

人

親子向け療育プログラム「べあすく」を提供した延べ人数です。江戸川区発達相談・支援センター、ADDskids1st荻窪、ADDskids1st鎌倉、全国のべあすく実装先機関にて7,303人の方にご提供しました。

データ解析数

1,928,581

件

AI-PACに蓄積された療育課題に関する延べ1,928,581件のデータを解析し研究を行っています。AI-PACとは…行動的・発達の観点による5領域600課題からなるカリキュラムを軸に、1人1人のお子さんに合わせた進捗管理や、記録を通じた家庭との連携、支援計画の作成や、教材や動画の活用などができる革新的なアプリケーションです。

相談支援提供延べ人数

8,059

人

相談支援を提供した延べ人数です。江戸川区発達相談・支援センター、オンライン相談サービスkikottoにて受け付けた様々な相談に対応しました。

kikotto

育成した支援者の数

2,552

人

研修・シンポジウム・ワークショップ・セラピスト育成・実習など様々な形で「支援者の学びの場」を提供しました。

わたしたち ADDsの活動と成果



Activities & achievements
1

RISTEXによる「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」 「市民科学とパーソナルデータを基盤とした 発達障害支援の臨床の知の共財化」プロジェクト報告

2020年度から継続して進めております本プロジェクトですが、関係者と協議を重ねた結果、2021年度より「市民科学とパーソナルデータを基盤とした発達障害支援の臨床の知の共財化」という研究タイトルに変更となりました。現場の支援者や保護者様など、市民一人ひとりの実践がエビデンスとして蓄積され、子どもたちに還元されていく社会をつくるための取り組みである事を改めて意識した上でのタイトル変更となりました。

昨年度に引き続き、年4回のバーチャル政策委員会では、様々な研究のアウトカムとして重要な子どもたちやご家族のwell-beingをどう定量化し、はかっていくのか、それを政策に活かしていくための道筋についてディスカッションを行いました。また、これまでの研究に加えて新たに、対人支援領域の支援者の事例研究をサポートするアプリである「AI-PAC LAB.」の開発を行い、公認心理師をはじめとする支援者の方々10名にワークショップ、中間研修、最終発表会に参加いただきました。心理学の研究手法の一つである「シングルケースデザイン」に基づくアプリ「AI-PAC LAB.」を活用し、事例研究レポートとしてまとめるプロセスを通して、臨床技術や知識の向上を



エビデンスに基づいた
発達支援も実現する
革新的ツールです！

目指すことができました。また、現場の先生方の優れた実践がきちんと可視化され蓄積されていくことで、新たな知の共財化の実現可能性を感じることが出来ました。「学びと発達のビッグデータ」構想では、新たに現場での実証研究を開始し、日々の療育で蓄積されたデータをお子さんのプロフィールに紐づけてより詳細に分析し、療育現場に還元していくための取り組みを継続しています。また、あらたにパーソナルデータを軸とした相談支援の実証研究も開始が決定しました。協力をしてくださる素晴らしい先生方に支えられ、少しずつ意義ある成果を出しつつあります。次年度が最終年度となりますので、「発達障害の概念が必要ない未来に向けて」をテーマに、科学技術の活用と政策提言に関する研究をしっかりと形にしていきたいと思います。

Activities & achievements
2

エビデンスで繋がる支援者の学びの場 「EDS-NETWORK」を本格実装

ADDsが2018年より取り組んできた全国の支援機関とのネットワークを活用し、支援者同士の学びのプラットフォーム構築を目的とした団体「EDS-NETWORK」がREADYFOR休眠預金活用基金の助成を受け本格的にスタートしました。

具体的には、オンライン地域研修会の開催によるウィズコロナ時代の学びの場づくり、研修資料の整理と共有保管庫の作成による臨床の知の共有、支援者向けのオンライン研修カリキュラムと教材の作成及び受講システムの開発、ネットワークに所属する機関同士の相互チェックによる質向上の互助システムの開発を実施。オンライン地域研修会では、「地域での支援人材育成」や「保育所との

連携」など、支援者や療育機関が身近に直面する課題をテーマに設定したことが功を奏し、3回の開催で250名の方にご参加いただくことができました。今後は「実際の子どもの接し方のコツ」など、いわゆる座学では学び取れない部分の学びを課題として研修会を企画して参ります。オンライン研修カリキュラム開発においては慶應義塾大学の山本淳一教授に監修をいただき、最先端の研究結果を踏まえた実践的な講座を開発しました。団体の目的でもある「全国各地域の支援の質向上」に向けて、より多くの方に本研修を届けられるよう精一杯取り組んで参ります。

子どもが輝くことで
社会全体が輝くことも
イメージしたロゴマーク



Activities & achievements
3

発達障害支援に携わるすべての人に 学びの機会を提供する、支援者育成事業

ADDsは創業当時より、お子さんに関わる全ての人の学びの場であることを大切にしてきました。2021年度の具体的な取り組みとして、専門学校生・大学院生の実習受け入れ、初級ABAセラピスト養成、支援者や一般向けのシンポジウム・研修、自閉症ワークショップの開催が挙げられます。実習受け入れについては、江戸川区発達相談・支援センター、荻窪事業所、鎌倉事業所の3拠点合計で総勢36名の受け入れを行い、未来の福祉や心理、教育現場でお子さんたちと向き合う学生の皆様に、効果的な支援について学んでいただくことができました。

初級ABAセラピスト養成研修受講者数は法人内8名(学生セラピスト含む)、他機関では58名にのぼります。特に、児童発達支援を行う事業者の職員の方々が多く受講くださったことで、幅広い地域で効果的な支援が提供される土壌が整い、ADDsの目指す

未来に大きく近づき1年となりました。初級ABAセラピスト養成研修は、支援者が学び続けることを目的に、フォローアップの研修も毎年開催しており、今年度は110名の方が参加、事例検討やワークショップを通じて、より実践的な学びを深めていただくことができました。

支援者や一般向けの研修開催については、江戸川区発達相談・支援センターの取り組みが大きな成果を上げており、今年度の受講者は1863名となりました。地域の主要機関として情報を発信し、多くの方々に学びの機会を提供することができたと思っています。多様な方々と協働し、ともにお子さんたちの未来を創る。そんな想いを胸に、お子さんに関わる全ての人が学び続けることができるよう、来年度も私たちの立場でできることを精一杯模索し、実現して参ります。

2021年は1863名の方が
受講しました！



Activities & achievements
4

発達支援が必要なお子様の保護者の方と 支援者向けの書籍を出版

【「できる」が増える！「困った行動」が減る！発達障害の子への言葉かけ辞典】と題し、ADDs共同代表の熊と竹内が共著にて書籍を出版しました。

出版にあたり、この19年間に会った子どもたちとご家族との試行錯誤を思い返し、蓄積してきた知見が、一人でも多くの読者の方を通して、まだ見ぬ全国の子どもたちに届くよう願いを込めました。その成長を通して多くの学びをくださったたくさんの親子の皆様、この場をお借りして改めて心より感謝申し上げます。

【すべての子どもに無限の可能性がある】【子どもたちの「ありのまま」のために】という思いを強く持ち、科学的根拠に基づくABAを取り入れて支援を続けてきました。環境だけを変えるのではなく、子どもだけを変えるのではなく、双方のポジティブな相互作用にアプローチしていくABAは、発達障害を抱える子ども達だけでなく、

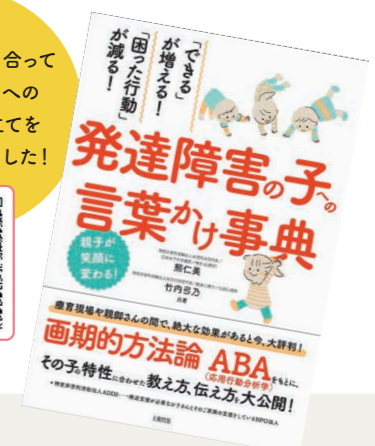
全ての人がよりよく生きられる社会へと繋がっています。本書ではその子の特性に合わせた教え方や、関わり方の具体的なアイデアを伝えています。ぜひ手に取ってご覧ください。



これまでに向き合ってきた悩みごとへの具体的な手立てを一冊にまとめました！



こちらからも
購入できます



たくさんのご寄付を ありがとうございました。

皆さまからのご寄付をこのように使用させて頂いております。
その一部をご紹介します



子ども達への支援を 全国へ届ける

早期発達支援プログラム導入費
人材研修費
システム開発費



kikotto

オンライン発達相談
相談員研修費
運営費 など



人材育成

テキスト作成費
研修会
支援方法の動画作成 など



研究開発

支援を可視化し全国どこからでも
情報を共有できるシステム開発
AI-PACのデータ分析



寄付はコチラから
<https://adds.or.jp/support/>



わたしたち ADDsの事業



調べる・生み出す

Examine & Produce

研究・開発

● 研究プロジェクトの推進



Activity content

質の高い発達支援・連携システムの開発と 効果検証を行います

ADDsでは、発達支援を行う中で蓄積してきたデータを研究の形でまとめ、その成果を通して早期支援の重要性を社会に発信してきました。また、効果のあるプログラムを自組織だけでなく、全国各地の既存の療育機関でも活用いただけるよう、療育支援システムAI-PAC(特許第6872811号)の開発や、人材育成に活用するロボットやVRのプログラム開発を行ってきました。

2016年度には、JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装」が採択され、全国各地の療育機関と連携し、エビデンスに基づく療育支援が地域で提供される多くの事例を生み出しました。また、3年間のプロジェクト期間に30回以上の研修会を行い、地域での情報発信も行いました。

2019年度には、JST/RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」が採択され、AI-PACやVRの発展的開発、Personal Life Repository (PLR)という仕組みを活用した子どもを取り巻く支援者連携など、教育・福祉など対人支援領域におけるデータの利活用の可能性や障壁調査を行っています。

現場の質の高い実践から得られる臨床の知が、テクノロジーやデータの利活用を通して多くの当事者やご家族のサポートにつながるよう、連携機関やアドバイザーの先生方のお力を借りながら、研究と開発を続けてまいります。





project
02
支える
Support

障害児通所支援事業
指定管理事業
オンライン発達相談

- ADDS Kids 1st 荻窪 / ADDS Kids 1st 鎌倉の運営
- 江戸川区発達相談・支援センターの運営
- オンライン発達相談サービスkikotto®の開発提供



Activity content

発達支援が必要なお子様と
ご家族を直接サポートします

ADDSの親子向け療育プログラムは、発達心理学と応用行動分析学という2つの学問領域から、現場の実践を通して開発しました。お子様の発達状況を丁寧にアセスメントし、一人ひとりに合った療育カリキュラムを構成、進捗に合わせて丁寧に更新することで、効率的に発達を促します。また、保護者の方にもe-learningや集合研修を通して理論を学んでいただき、家庭でも療育ができるように丁寧に課題内容も共有します。「保護者は子どもにとって一番の理解者であり支援者である」という理念のもと、ご家族とチームになってお子様一人ひとりのその子らしい学びをサポートします。

現在は、親子向け療育プログラム「べあすく」、個別の直接支援プログラム「学びの広場」、2人ベアの直接支援プログラム「ぴあまな」、

集団クラスなど、様々なプログラムを開講しています。2009年の任意団体ADDS立ち上げ当初は、5家庭を対象に始めた取り組みでしたが、現在は、ADDS Kids 1st 荻窪・ADDS Kids 1st 鎌倉・江戸川発達相談・支援センターの3拠点で、年間100家庭以上へ提供することができるようになりました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、全国どこからでもお子様の発達について専門家に相談できるオンライン発達相談サービスを、2020年度の開発期間を経て、2021年4月に正式リリースしました。日本国内からだけでなく海外からも、多くの発達に関するご相談が寄せられています。

project
03
育てる・広げる
Nurture & Spread

支援者育成事業

- AI-PAC(特許第6872811号) / 「べあすく」導入支援
- 初級ABAセラピスト養成研修の提供
- 人材研修プログラムの提供、コンサルテーション
- 学生セラピストの育成
- EDS-NETWORKの運営



Activity content

「支援者の学びの場」として、
療育支援システムや研修プログラムを提供します



ADDSは、立ち上げ当初より「支援者の学びの場」であることを大切にしてきました。

現在、全国の障害児通所支援事業(児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業)を提供する事業所は2万カ所にのぼり、日々多くの支援者が、熱い思いを持って目の前の子どもたちに接しています。しかし、体系的な研修制度やプログラムをもつ事業者はまだ少なく、経験のみを頼りに支援にあたる困り感や、全国的な支援の質のばらつきが課題となっています。また、保育所、幼稚園、子育て支援、学校、学童などでも、発達特性のあるお子様への適切な関わりについて学びたいというニーズは非常に大きいです。

ADDSでは、全国の既存の療育機関の先生たちが、お子様の発達状況に合わせた個別指導の課題構成や更新ができる療育支援システム「AI-PAC」や、保護者とチームで療育に取り組むための「べあすく」プログラムの導入支援を行っています。これは、2016年度にJST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択された「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達

障害児の早期療育モデルの実装」において開発と効果検証を行った仕組みで、現在は法人の独自事業として継続しています。現在までに、全国20事業所に提供してきました。連携機関の代表者の方、研究者や臨床家のアドバイザーの先生方とともに、EDS-NETWORK(エビデンスに基づいた発達支援全日本ネットワーク)を設立、READYFOR休眠預金活用基金様の助成をいただき、支援者の学びのプラットフォームを構築しています。

また、個人の支援者向けに「初級ABAセラピスト養成研修」を提供し、現在までに150名以上の方に受講いただきました。より多くの方を受け入れることができるように、実践研修の一部をVRを活用したシミュレーション形式にするなど、改良を重ねています。

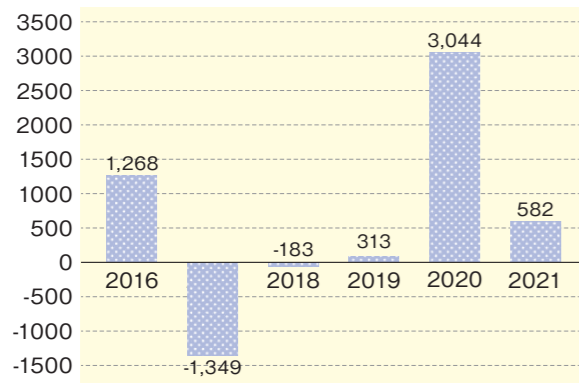
さらに、私たちは、自分たちも「学生セラピスト」だった経験から、保護者と良いチームにれば学生にもできることが沢山あると確信しており、学生セラピストの養成も行っています。ADDSの学生セラピスト部は、これまでに90名以上の卒業生を輩出し、早期支援の重要性と子どもの可能性を肌で感じ学んだ卒業生たちが、教育・福祉分野をはじめ社会の様々な領域で活躍しています。

2021年度財務報告



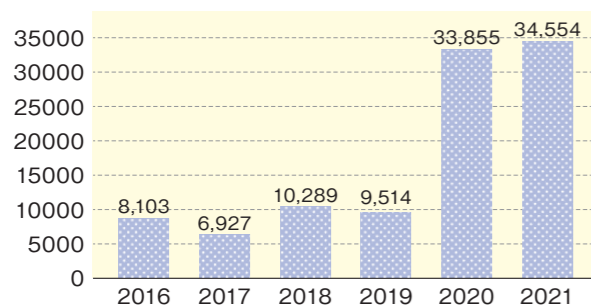
特定非営利活動法人ADDSは「発達支援が必要なすべての人が、自分らしく学び、希望をもって生きていける社会をともに実現します」というミッションを掲げ活動しています。利益は継続的に支援と研究を続けていく為に必要不可欠なものであると考え、本ページにおいて財政情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。

正味財産増減額(単位:万円)



2020年度から2021年度にかけてご支援いただいた助成金を利用して、全国どこからでもお子様の発達について専門家に相談できるオンライン発達相談サービスを正式に2021年4月にリリースすることができました。会計上、助成期間が年度をまたいでおり、収益が2020年度に計上され、一部2021年度にその費用が発生しているため、2021年度の正味財産増減額は約582万円となりました。皆様に広くご支持とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。これからも、収益の安定化を目指し、継続的な事業の運営に役立ててまいります。

経常収益の推移(単位:万円)



経常収益に関しましては、2021年度は34,554万円となり前年度と同じ水準を維持しました。収益規模拡大により、2020年度よりガバナンスの強化が課題となり、理事会において外部アドバイザーを増やし内部の制度改定をすすめております。事業につきましては、指定管理事業、障害児通所支援事業の安定的な運営とともに、制度化されていない部分の課題に対してもご寄付や助成金を活用し、ミッション達成に向けてより精進してまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

2021年度活動計算書

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
経営収益		経常外収益	0
1 受領寄付金	7,969,650	経常外収益計	0
2 受領助成金等	254,137,848		
受取補助金等	10,170,000	経常外費用	0
指定管理収入	243,967,848	経常外費用計	0
3 事業収益	83,392,765		
支援者育成事業	13,106,616	当期経常増資額	5,820,293
障害児通所支援	63,575,201	前期繰越正味財産額	63,949,128
収益事業	6,710,948	法人税、住民税及び事業税	203,300
4 その他の収益	38,068	次期繰越正味財産額	69,566,121
経営収益計	345,538,331		
経営費用		以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。	
1 事業費	327,091,411	ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。	
2 管理費	12,626,627		
経営費計	339,718,038		

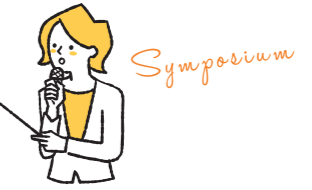


活動実績

2020年からの主な活動実績を紹介します。



- 2月 江戸川区発達相談・支援センターキックオフシンポジウム開催
- 3月 「テクノロジー×福祉が描く未来社会～臨床の知の体系化を目指して～」開催
RISTEX科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム公開シンポジウム
- 4月 江戸川区発達相談・支援センター開所
- 6月 みてね基金「発達障害児と保護者のための駆込み発達相談プラットフォームの構築」採択
- 6月 READYFOR新型コロナウイルス感染症:拡大防止活動基金 採択
- 6月 READYFOR休眠預金活用基金 採択
- 7月 クラウドファンディング達成【コロナに負けない。駆込み発達相談プラットフォームを立ち上げたい】
- 8月 行動分析学会第38回年次大会「臨床現場で求められる実践家の育成」発表
- 11月 江戸川区発達相談・支援センターバーチャル見学ツアー・オンライン講演会開催



2021



- 2月 「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」第2回シンポジウム「テクノロジー×福祉が描く未来社会～子どもを中心としたデータ活用を目指して～」開催
- 2月 公認心理師の会ワークショップ
「親子共学型プログラム「べあすく」を学ぶ-応用行動分析(ABA)に基づいた早期支援」
- 4月 オンライン発達相談サービスkikottoリリース
- 5月 朝日新聞出版AERA 2021年5月24日増大号巻頭特集「発達障害「困りごと」改善の新機軸」に掲載
- 5月 新公益連盟の幹事団体に就任
- 5月 RISTEXによる【SOLVE for SDGs】のプログラムアドバイザーに共同代表竹内就任
- 10月 「Industry Co-Creation(ICC)サミット KYOTO 2021」にて共同代表竹内登壇
- 12月 公認心理師の会専門委員に共同代表熊就任
- 12月 「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」第3回シンポジウム「テクノロジー×福祉が描く未来社会～子どもを中心としたデータ活用を目指して～」
- 12月 NHK番組でこぼこぼんの原案 共同代表竹内担当



2022

- 2月 日本行動分析学会ニューズレター寄稿 我が国における発達障害の早期支援-そのアウトカムと社会実装-
-ABAに基づいた発達支援の選択肢を親子に届けるために-共同代表 熊仁美
- 3月 Forbes 5月号「優れた非営利団体30選」に選出
- 4月 「発達に気になる子育て・曲折浮沈すごろく」を公開
- 4月 書籍出版(熊・竹内共著)「できる」が増える!
「困った行動」が減る! 発達障害の子への言葉かけ事典



We will continue to run!



社会の様々な領域で活躍している学生セラピストの今

早期支援の重要性と、子どもの可能性を肌で感じ学んだ卒業生たちに聞きました!

- Q1 現在のご職業と仕事内容
- Q2 ADDSで学生セラピストをしようと考えた理由は?
- Q3 現在に活かされていると感じる学生セラピストでの経験は?



作新学院大学 人間文化学部 講師
石塚 祐香様 (学セラ歴 約7年)



Q1
栃木県宇都宮市にある作新学院大学に教員として勤務しています。大学教員の仕事は、大きく分けて研究・教育・大学運営・社会(地域)貢献があります。その中でも研究では、「発達障害のある子どもたちの言語発達」をテーマに支援方法の開発や支援の効果検証を行っています。教育では、小学校教諭や特別支援学校教諭免許の取得を目指している学生の皆さんを対象に「発達心理学」や「特別支援教育」に関する講義を担当しています。

Q2
ADDSの前身である、KODS(慶應義塾大学の学生団体)に大学1年生から所属し、学生セラピストをしていました。当時から子どもが好きでしたが、子どもと接する機会はほとんどありませんでした。そんな時、ADDS理事の方々がサークル内で「応用行動分析学」に関する講義をしてくださり、その内容に感銘を受け、「関わり方に法則があるのなら、関わり方に自信のない私でも始められるかもしれない!やってみよう!」と思ったことが理由です。

Q3
全てですね。学生セラピストの経験を通して「もっと子どもたちのことを知りたい!」という気持ちを持ち続けていたら、いつの間にか現在の仕事に辿り着いていました(笑)。私の研究テーマの1つに「随伴模倣」という支援方法があります。「子どもに大人のまねをしてもらうためには、まず大人から子どもをまねていこう!」という方法なのですが、この方法に興味を持ったのも担当ケースのお子さんとの関わりがきっかけです。私は、学生セラピストの経験が契機となり、ライフワークを見つけることができました。ADDS理事の皆様をはじめ、お世話になった保護者の方々、関わらせてもらったお子さんたちから学ばせていただき、育てていただきました。感謝してもきれないですね。

私は研究者、大学教員としてまだまだ未熟で修行の日々ですが、学んだこと、経験したことを少しでも社会に還元できるように、そして多様な子どもたちに対する発達支援に関する知識と技術を兼ね備えた人材育成に貢献できるようにこれからも精進していきたいと思っています。

Interview with the therapist

府川 優衣様 (学セラ歴 約4年)



Q1
市の教育相談センターと小学校のスクールカウンセラーをしています。子どもたちの心理的な問題等の相談に応じたり、保護者・教員に対して子どもへの関わり方を一緒に考えるお仕事です。

Q2
将来のために、子どもに関わる支援の経験が積むことができるお仕事を探していた時にADDSに出会いました。すぐに現場に入るのではなく、知識・スキルを身につけるしっかりとした研修をしていただけるのが魅力的でした。また同じ年代の同じ道を志す仲間にも出会えること、研修後には実際に子どもへの直接的な発達支援ができること、発達支援に関連した様々なイベントにも参加できることは他では得られない貴重な機会となりました。

Q3
すべて、といっても過言ではないくらい、ADDSで培ってきた経験・知識・自信を仕事に活かすことができ、本当にADDSの一員となれてよかったなと日々感じています。学校場面においては、子どもへの関わりだけでなく、授業観察による見立てや、先生・保護者の方へ具体的な関わり方の提案など。生活場面においては、小さいことでもプラスの面に着目し、人の良い面をどんどん見つけることができるようになりました。保護者が子どもの1番の専門家であり、みんなで一緒に子どもたちを支えていくという視点は、私の芯になっています!

江戸川区発達相談支援センター(ADDS運営)
児童発達支援事業 療育部門リーダー
栗林 千夏様 (学セラ歴 約2年)



Q1
指導員として、療育の現場で働いています。

Q2
大学2年生から大学を卒業するまで、自閉症のお子さんのご家庭で保護者の方に教わりながらセラピーを行っていました。訪問開始から1年経った頃に保護者の方からADDSを紹介され、同じ年代の仲間が活動していることを知りました。「自分と同じ活動をしている仲間に出会ってみたい!」という好奇心から、学生セラピストになりました。初年度に担当した女の子のケースでは、アイコンタクトやコミュニケーションをとることが課題だった彼女と一緒に、可愛い物を使用しながらセラピーを行っていました。その時に、課題へのモチベーションがあがればいいな、と思い作ったのがケーキ型のトークン(ポイント交換システム用の教材)。課題が1つ終わるたびにイチゴやろうそくと一緒にデコレーションをしていく流れがヒットし、こちらを向いてくれる機会も少しずつ増えていきました。彼女が笑顔でこちらを向いてくれた時に、コミュニケーションのきっかけになる嬉しいものを作れてよかったと感じました。

Q3
『とにかく褒める』『いいところ、できていることに注目する』という考え方を教わったことです。学生セラピストを卒業後ADDSに就職し、現在に至るまで勤務を続けています。毎日32名の子供が来所し、20人の同じ事業の職員と支援にあたっています。療育部門のリーダーとして現場の指導員のケースに同席し、振り返りを行うことがあります。職員が子供との関わり方や課題の方向性に悩んでいるときに一緒に今できていることを探し、次に活かせる場所を見つけ、最後に次の支援目標を決める。振り返り後職員が「栗林さんの振り返り、私自身が強化されます!」と笑顔で声をかけてくれたときにやりがいを感じます。「発達支援が必要なすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会をともに実現すること。」このADDSのミッションは制限無く誰でも参加できる!そう信じています。私自身現状に満足せず、変化を追い求めて日々精進してまいりたいと思います。スマイルも忘れずに♡

ADDSに集まったたくさんの仲間。私たちの共に未来を描く仲間たちを紹介します!

We are ADDS!



わたしたち ADDsのあゆみ

保護者主体の療育を社会へ

- 任意団体「ADDs」の設立
- 「早期療育スタートアッププロジェクト 2009」
- 学生セラピスト部第1期生スタート
- NEC 社会起業塾8期生に選出

出会い

学生時代の「お話が苦手な幼稚園児に、遊びの中で言葉を教えるアルバイト」が自閉症の支援をはじめのきっかけに。

恵比寿時代 / NPO法人化

- 恵比寿指導ルーム
- 「早期療育スタートアッププログラム」提供数増加
- 他事業者へのセラピスト養成・研修提供開始

Research and support

研究と支援のひろがり

- 「早期療育スタートアッププログラム Ver.2」開始
- 「べあすく」のレギュラー化
- NHKあさイチ発達障害特集
- JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択

荻窪指導ルームOPEN

- 2事業所目「ADDs Kids 1st 荻窪」開所
- 「発達の気になる子と家族の勉強会」

鎌倉指導ルームOPEN

- 3事業所目「ADDs Kids 1st 鎌倉」開所
- AI-PAC実装公募説明会
- 実装機関が10機関へ

READYFOR

新型コロナウイルス感染症 拡大防止活動基金 採択

みてね基金

「発達障害児と保護者のための 駆込み発達相談プラットフォームの構築」採択

オンライン発達相談サービス kikottoリリース

- 「EDS-NETWORK」本格始動

2003 2006 2009 2010 2011 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

間借り生活

- 徹夜のプログラム作成
- 中目黒指導ルーム(日)
- 横浜指導ルーム(月)
- 六郷土手指導ルーム(日)

Challenge!

新たな挑戦

- 情報発信サイト～Hütte～イベント開催
- Hütteカフェ(先輩ママ座談会)
- 謎解き×自閉症体験プログラム「88ぶんのI」
- 「べあすく」開始
- 保護者向けE-learning プログラム開発

新宿指導ルームOPEN

- 新宿指導ルーム開所
- 「児童発達支援事業」スタート
- はじめて職員が入社

学生の立場でできること

学生団体「慶應発達障害支援会(KDDS)」設立。大学院にて研究・臨床活動。

年度戦略的創造研究推進事業 「科学技術イノベーション政策のための 科学研究開発プログラム」に採択

有効な支援を全国へ

- 「べあすく」各地への実装スタート!
- 課題構成システム「AI-PAC」開発完了
- ミサワホーム・セントスタッフ放課後等デイサービス「ミライエ」技術提携
- 三菱財団社会福祉事業・研究助成採択
- 自閉症啓発デー参加開始

エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む 発達障害児の早期療育モデルの実装PJ

兵庫県	児童発達支援センター ゆーかりの森
徳島県	徳島県教育委員会 特別支援教育課
香川県	NPO法人子育てネットくすくす 障害児通所支援事業 すまいる

茨城県・栃木県	こどもサークル
埼玉県	キッズホームFIT
千葉県	ぶりんぐあっぷちば 子ども発達センター
児童発達支援 にじいろデイズ市川新田	
社会福祉法人 まつど育成会	
神奈川県	ミライエ 共同企業体
児童発達支援 マルシェ	
児童発達支援・放課後デイサービス Tortoise kids	
一般社団法人 キッズライン	

Nationwide scale



聞いてみました！
わたしたち
ADDsを支えてくださる方々の声

VOICE

ADDsに通所出来たこと、
先生方に会えたことは、
私たち親子の一生の財産です。

当時5歳だった息子は、苦手な事が沢山ありました。親として何とかしてあげたい、けれどその術が分からず途方に暮れる中、ADDsに通所出来ることになりました。通所中は、一丸となって先生方が苦手を克服出来るように課題を考えてくださり、熱意ある指導や私たちの気持ちに寄り添ってくださり、それは息子の生きる力となっていきました。また保護者へのサポートも充実しており、家庭療育の大切さも学ぶ事ができました。現在息子は、小学2年生になりました。1年半通所した中で、たくさんのタネをまいていただき、芽が出て通所前の私が、想像すらしなかった程に成長してくれました。感謝の気持ちをお伝えするとともに、あの頃の私たち親子のような方が、まだまだいらっしゃると思います。ADDsの素晴らしい支援が広がり、たくさんの方に届くことを心から願っております。



E.H 様



VOICE

様々な特性を持った人が、
輝ける社会に向けて。

ADDsの皆さんと出会ったのは、長男の療育でお世話になった2017年頃です。長男が自閉症であることが分かり、右も左も分からない状況の中で、毎週、教室に通い、長男が少しずつ変化していくことに気づきました。同時にそれは、妻や私の変化にも繋がっているのだということを感じるようになりました。

今、長男は小学校3年生になり、毎日特別支援学校に通っています。あの時、ADDsの皆さんに出会い、多くのことを学んでいなかったら、今の我が家、長男はないと本当に思います。ADDsの皆さんの取り組みが、多くの地域、自治体で広がるように、皆さんが試行錯誤されているところに、少しばかりでも貢献できたらという思いから、現在、RISTEXのプロジェクトに関わらせていただいています。



株式会社Ridilover 事業開発チーム
サプリーダー

柴田 寛文 様

私自身、現在、株式会社Ridiloverという会社におりますが、「様々な特性を持った人、課題を抱えた人、得意を持った人が、小さな一歩を踏み出して、支え合える社会を、一緒に作っていく。」という思いで、日々の仕事に携わっています。同じ方向を目指す皆さんと、引き続き、悩み、考え、行動していきたいと思ひますし、同じ思いを持つ皆さんと繋がっていけると良いなと考えています。



多くの企業・団体みなさまにADDsは支えられています



(一部ご紹介・順不同)